

研究タイトル:

当事者視点に基づくケア環境の構築



氏名:	加藤悠介 / KATO Yusuke	E-mail:	ykato@toyota-ct.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(学術)
所属学会・協会:	日本建築学会、日本認知症ケア学会		
キーワード:	ケア環境、当事者、福祉施設、地域居住		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設の設計支援(改修計画を含む) ・当事者参加型のまちづくりのコーディネート ・ 		

研究内容: 当事者の生活の質を支える福祉施設と地域拠点の設計手法に関する研究

共生社会の実現に向けて、様々な困難を抱える当事者の生活を一体的に支える仕組みが求められている。それには、福祉施設や福祉住居のみならず、地域を含めたケア環境の構築が必要不可欠である。具体的なテーマとして、以下の内容に取り組んでいる。

(1) 福祉施設を住まい化する意義

当事者が居住する福祉施設的环境は住宅に近づける必要がある。それは、施設環境を家庭的なスケールにすることにとどまらず、様々なケア提供者と当事者との関係性まで配慮することでもある。虐待などにより社会的養護が必要となった子どもが暮らす場所として、ファミリーホームが普及している。ファミリーホームは児童養護施設ではなく、里親家庭が拡大された住まいで、子どもは養育者の家庭に迎え入れられるのが大きな特徴である。ファミリーホームには福祉施設を住まい化する本質的な環境が表れていると考え、そこでの生活実態や地域との関係構築について調査している。

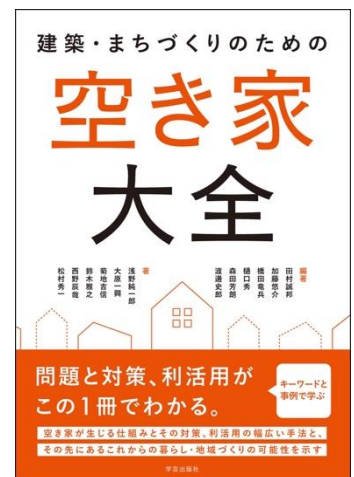
(2) 協働する環境づくり

福祉施設は利用する人々や掲げるケア理念に応じて、定期的にケア環境を調整する必要がある。当事者やケアスタッフと協働した環境づくりを実践している。そこでは、エビデンス・ベースド・デザインの視点を重視し、現在のケア環境の調査の実施、客観的なデータに基づく計画立案、効果の検証というプロセスを採用している。

(3) 社会的包摂を実現する地域拠点の計画

ケアサービスを受ける人だけでなく、独居高齢者、貧困世帯、子育て世帯、外国人など、地域には支援を必要とする様々な人が暮らしている。支援が必要ときだけ制度に繋がるのではなく、日常的に生活情報が共有される仕組みが求められている。そのためには、地域の人々が気軽に集まることのできる地域拠点が必要である。集合住宅団地の再生事例を通じて、社会的包摂を促進する地域拠点の計画について調査・研究している。

執筆に関わった主な書籍



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	